

2023年7月ハイパーカレンダーレポート

梅雨が明けて、暑い夏が始まった。世界気象機関（WMO）と欧州連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス（C3S）」は、7月の世界の平均気温が観測史上最も高くなることが確実になったと発表した。国連のグテーレス事務総長でさえ、地球沸騰の時代が来たという表現を使った。命にかかわる危険な暑さは、日本だけでなく欧州を中心に世界に広がったのである。

国内外でもさまざまな出来事があったが、情報社会関連で言うと、2022年10月7日に米国が出した中国向けの半導体に関する輸出規制に同調し、政府は先端半導体の製造装置23品目の輸出規制を強化した。台湾有事にも繋がりがねないこの半導体戦争は、ウクライナ戦争同様に先行きが見えない。一方、世界中を席卷した生成AIブームは落ち着きつつあるものの、その利活用についてはさまざまな意見が交錯しているため、文科省は、初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドラインで「限定的な利用から始めるのが適切」とする指針をまとめた。

さてハイパー研の7月は、[（公財）ハイパーネットワーク社会研究所主催セミナー「IoT、AIが切り拓く第4次産業革命とSociety5.0」（講師：村上 憲郎）](#)で始まった。一般参加を含めて賛助会員等への普及啓発であり、最新動向について講演会を実施した。第4次産業革命は、デジタル技術、IoT、AIなどの革新的な技術を基盤として、産業と社会の進化を指し示す。Society 5.0は、これらの技術を用いて、人々の生活の質を向上させ、持続可能な社会を築くことを目指す日本のビジョンである。IoTとAIは、このビジョンを実現するための重要な要素であり、様々な分野での進化や改善に寄与するのである。そして単年度事業も動き出す時期であり、高校生の夏休みが始まり、教育事業のイベント等が出てくる季節でもある。2019年12月に設立した「おおいたAIテクノロジーセンター」は、4年目の活動に入り、[令和5年度のキックオフセミナー](#)を開催した。今回の目玉は、株式会社 FaBo の佐々木社長による ChatGPT の音声対応デモンストレーションや「ChatGPT の利活用や生成AIの可能性等について」の講演であった。また NVIDIA 合同会社の田上部長からは、AIの最新動向にご紹介していただいた。毎年恒例となった「[中学生・高校生 ICT カンファレンス2023in 大分](#)」は、これからのデジタル社会に対し、高校生が果たすべき役割は何か。多様な ICT 機器を活用できる高校生の役割について、斬新な指針と実現方法を提言するもので、他校生との交流、インターネットの使い方について考えを大人に伝える、発表やプレゼンテーションの経験、進学や就職に備えての課外活動という目的がある。このイベントでは、大分県代表になって全国サミットに参加できるという特典も付いている。

（文責：青木栄二）